

会報 むすび

第46号

令和4年5月吉日

発行所

栃木県青年神職むすび会

研修・広報委員会

発行人

上野 敬 則

印刷所

株式会社 協栄社



令和3年度総会

目次

会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第二十七回 神青協一都七県協議会総会・・・・・	2
男体山登拝研修会 下見登拝・・・・・・・・・・	3
男体山登拝研修会・・・・・・・・・・	4
研修会と山岳信仰について・・・・・・・・・・	6
栃木の神社 御朱印巡り・・・・・・・・・・	9
祭式研修会・・・・・・・・・・	9
令和三年度 むすび会事業報告・・・・・・・・・・	10
令和四年度 むすび会役員・幹事氏名・・・・・・・・	11
新入会員、祝・御結婚、祝・御誕生・・・・・・・・	12
協賛社広告・・・・・・・・・・	13
編集後記・研修広報委員会名簿・・・・・・・・	16



会長挨拶

謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げますとともに、神宮におかれましても諸祭恙無く斎行されておりますこと、慶賀に存じ上げます。

一年程で収束するかに思われていた新型コロナウイルス感染症ですが、ウイルスが変異するたび猛威を振るい、令和三年度もコロナウイルスの動向を見ながら会の諸行事の可否を判断する状況が続きました。五月の定例総会は感染対策を施し開催することができましたが、総会後の懇親会や昇級者祝賀会は中止と致しました。六月には栃木県が主管となり宇都宮にて神青協一都七県協議会の定例総会を予定しておりましたが、会員や参加者の安全を最優先とし、完全オンラインでの開催となりました。オンライン上での開催は一都七県協議会としても初の試みでしたが、当会副会長の和田実行委員長を始め会員の準備や協力のもと、計画通り総会と講演会を行うことができました。また、八月には会として十数年ぶりに日光男体山登拝研修会を行い、登拝を通じ自己研鑽と会員相互の親睦を図ることができました。しかし、九月に実施を予定していた道の駅「ばとう」での御朱印展は、緊急事態宣言により十月に延期致しました。県北では初の開催となりましたが、開催期間中四千人程度の来場があり、地元の神社へ参拝が増えたとの話を伺うことができ非常に嬉しく思います。また、令和四年三月には昨年に引き続き祭式研修会を行いました。このように令和三年度はコロナを理由に歩みを止めることなく、コロナ禍でも懸命に事業構築を行ってくれた会員の皆様を始め、事業開催にあ

栃木県青年神職むすび会

第二十五代会長 上野 敬則

たりお力添えを頂戴した支部や神社の皆様には改めて御礼を申し上げます。

さて、昨年から申しておりましたが、本年当会は創立六十周年の節目を迎えます。会を守り育んでこられた諸先輩方の軌跡を学ぶとともに、次の世代に伝え残していくため、当会副会長の越口実行委員長のもと会員一丸となり、現在様々な事業の実現に向け会議を重ねております。医療従事者と参拝者をむすぶ試みや、神職子弟を対象とした神社体験、新規取り纏めでの御朱印展、そして皆様をお招きしての記念大会を予定しております。コロナウイルスの動向によつては規模の縮小や延期なども考えられますが、今できることを精一杯考え動いて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

また、本年は沖縄県本土復帰五十周年の年でもあります。先の大戦のうえに我々の平和が成り立っており、戦争を知らない世代ではありますが、節目にあたり英霊顕彰活動にも取り組み、周年事業の一環として沖縄の地で慰霊祭を斎行し、英霊の御霊が穏やかにお鎮まりいたいただけるよう祈りを捧げてまいりたいと考えております。

最後に、御朱印ブームと騒がれ始めてから既に数年が経過し、現在も週末には多くの参拝者が神社に足を運んでおります。他県に比べ御朱印の表現が盛んな栃木県だからこそ、御朱印から神道に対する信仰へ繋げていく方法を模索し、神宮を始め氏神の護持や大麻増体に結びつけられるよう、会として青年神職としてできることを考え、残り一年を行動して参りたいと思います。

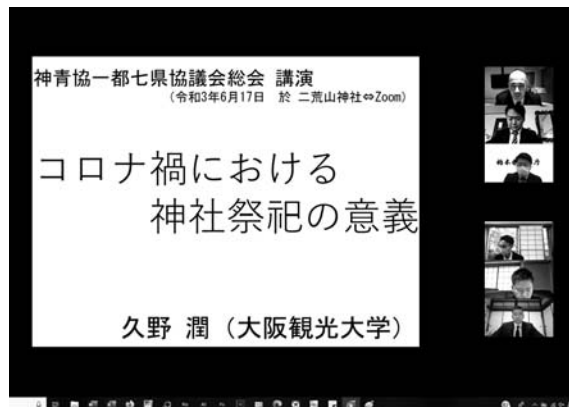
第二十七回 神青協一都七県協議会総会

六月十七日、第二十七回神青協一都七県協議会総会が、オンライン会議システムZOOMを用いて開催されました。未だ収束の兆しがみえない新型コロナウイルス感染症拡大防止のため初めての試みとなるオンライン総会は、会長以下、役員数名が、感染症対策を講じた上、神社庁に参集し、そのほかの出席者は、各々の場所よりZOOMを利用しての参加となりました。

越口副会長の開会の辞、国歌斉唱、井上庶務の先導で敬神生活の綱領を唱和した後、一都七県協議会瀬尾会長挨拶、続けて主管県として上野会長がコロナ禍の中でのオンライン開催へのご理解と感謝の言葉を述べました。議事では、令和二年度事業報告、決算報告、監査報告、役員交代、令和三年度事業計画案、予算案などが上程され原案通り承認され新顧問委嘱、各単位会の報告がなされ、和田副会長の閉会の辞をもちまして議事を終了しました。休憩の後、「コロナ禍における神社祭祀の意義」の演題にて大阪観光大学専任講師久野潤先生にご講演をいただきました。

今回オンラインでの初めての試みとなった神青協一都七県協議会総会でしたが、音響やタイムラグの調整など対応する事はありませんでしたが、むすび会一丸となつて乗り越えられたと思います。また、八年後に担当県となる当会としては、今回の経験は良い機会であったと思います。

宇都宮二荒山神社 篠崎博哉



男体山登拝研修会 下見登拝

八月三日、研修・広報委員会主催の研修事業の一つ、「男体山登拝研修会」の下見登拝を、齊藤隆倫委員長、根本直樹副委員長、篠崎博哉副委員長の三名で実施しました。天気予報は晴れでしたが、中宮祠に到着する前から雨が降っていました。午前六時三十分集合して日光二荒山神社中宮祠にて登拝奉告参拝をしました。空には晴れ間も覗き、「リーダーに映らないような雲だから雨が降っても長く降ることはないだろう。」と助言をいただき、午前六時四十五分から登拝を開始しました。

入山口から三合目までの登山道は雨でぬかるみ、想像以上に体に負荷のかかる登りだなと思いました。雨音はしていたものの、木々のおかげで濡れることは少なかつたのですが、三合目に到達したときに本降りの強い雨となりました。登拝を継続するか否かを三名で協議し、一度中宮祠まで下山しました。下山後しばらくすると天候も回復の兆しが見えていました。第二十三代福田有宏会長から「せっかく来たのだからもう一度登った方がよい。これから天気は回復していくから大丈夫。」というお言葉をいただき、再度山頂へ向けて登拝をすることとしました。

男体山の登山道は土の林道、車道、岩場、ガレ、ザレ、と足場の変化に富んでおり、クライミングの高度な技術は必要ありませんが、体力的な負荷のかかる登山道となっています。途中途中で休憩を挟みながら、声を掛け合い一歩一歩着実に登りました。ところどころで振り返ると中禅寺湖の綺麗な景色を望むことができました。午前十一時二十五分、男体山山頂に到着しました。山頂付近から眺めた雲海の景色は、登りの大変さを忘れるくらいに素晴らしいものでした。山頂到着後、当日の行程と同じように奥宮にて大祓詞を奏上し、国旗を広げて記念撮影を行いました。

山頂でしばらく休憩の後、少し時間をかけて下山しました。やはり、登りよりも下るときの方が膝や下半身に大きな負荷がかかりました。午後三時三十分、中宮祠に到着して参拝し、無事下山を奉告しました。日光二荒山神社様の御厚意で入浴をさせていただき、疲れた身体に温かい温泉がとても気持ち良かったです。今回の下見登拝で実際に経験し、当日起こり得る様々な問題点を見つけ出して学ぶことができました。日光二荒山神社中宮祠の皆様には、下見登拝にも関わらずご丁寧なご対応をいただき、心より御礼申し上げます。

大前神社 根本直樹



男体山登拝研修会

八月十一日、男体山登拝研修会が開催されました。コロナ禍における参集しての研修が儘ならぬ中、感染症対策に万全を期して執り行われ、会員十四名と日光二荒山神社権禰宜福田有宏様、合わせて十五名が参加しました。本年はオリンピックの影響で山の日が八月八日に変更されましたが、本来は八月十一日が山の日です。

研修会当日は、午前六時四十五分に日光二荒山神社中宮神社殿前にて開講式を行い、霊峰入山にあたり日光二荒山神社町井権禰宜様によるお祓いを受け、心身を清めていただきました。開講式の時点で、既に五十名以上が入山しているとお話を伺い、これほどまでに沢山の方が奥宮を目指す意味とは何か、この研修でより一層自らを研磨しようと会員それぞれが志をもつて登拝を開始しました。

台風の影響が心配されていた天候は見事な快晴となり、むすび会第二十三代会長である福田有宏様の引率のもと、安全に配慮しながら歩を進めました。登山道は、緩やかな道もあれば岩場に手をかけて登る急峻な道もあり、滑りやすい勾配に足元をとられる場面もありました。

午前十一時、男体山山頂に到着しました。山頂の冷んやりとした風は心地よく、必死に登ってきた汗も引き、肌寒ささえ感じました。天に向かってそびえ立つ御神剣と、山頂に鎮座する御神像からの眺めは、まさに絶景でした。御神山男体山の神々しさを肌で感じ、千二百年を越える昔から登拝祭が守り継がれ、年間数万人もの登拝者がいることの意味を実感しました。奥宮で無事に登頂できた感謝を込めて参拝し、コロナの早期終息を願って大祓詞を全員で奏上いたしました。

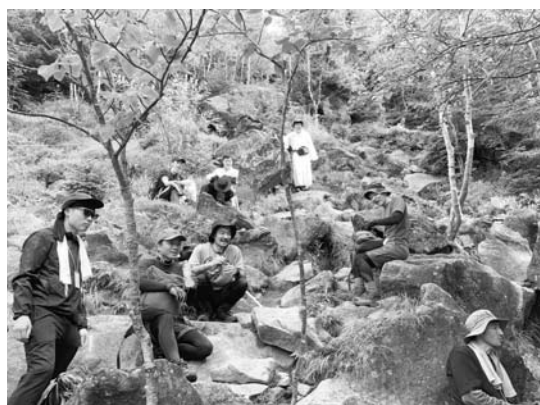
山頂では男体山登拝歴七百回を超えるという鈴木栄次様と出会い、男体山の歴史や下山時のコツなどのお話を伺いながら山を下りました。この経験も大変貴重な研修の一環となりました。

登山道の滑りやすい斜面には木杭で打たれた無数の土嚢が置かれていたり、勾配のある場所では土留めに加えて木片と土を固めた階段が眺えていたりしました。そのおかげで、登りで酷使した足が救われました。また、道中にはゴミなどがひとつも見当たらず、これも男体山がいかに人々から愛され親しまれている山であり、崇敬されている霊峰であるのかを表しているのだと感じました。

休憩の折々には会員同士の会話はずみ、お互いに親睦を図りながら怪我もなく全員が無事に登拝研修を修めることができました。大変有意義な研修となりました。

平柳星宮神社 林靖大







特別寄稿

研修会と山岳信仰について

日光二荒山神社

権禰宜 福田 有宏 (第二十三代会長)

この度は「会報むすび第四十六号」の発刊、誠におめでとうございます。先ず、昨年の栃木県青年神職むすび会男体山登拝研修会開催にあたり、栃木県神社庁様より多大なるご支援を頂戴しましたことに心から感謝申し上げます。またコロナ禍の厳しい状況下に在って十五名もの参加を結実できましたことは、会員神職を抱える各御社の宮司様をはじめ、諸先輩方の深いご理解の賜物であり、元会員のひとりとして重ねて感謝申し上げます。図らずも、本研修会の先導役を宮司から仰せつかり、自分に務まるかと不安な思いでしたが、長年お世話になったむすび会への恩返しになればとお引き受けた次第です。果たして如何程お役に立てたものか自信はありませんが、上野会長以下会員皆様の心強い協力により、参加者全員怪我も無く終了することができましたことは何より感無量であります。顧みれば研修中は誰一人弱音を吐く事無く、私の拙い講義解説にも熱心に耳を傾け、日光の山岳信仰について自ら進んで体感し、見識を深めました。むすび会による男体山登拝は過去に幾度も実施されてきましたが、歴代先輩方の後塵を拝し、私自身もあらためて登拝の意義深さに触れることができましたし、会員各位も自分たちが常日頃お仕える御社と男体山とが一千二百四十年という悠久の歴史の中で、何かしら結ばれていることを肌で感じて戴けたのではないのでしょうか。この成果がそれぞれの奉務神社で存分に発揮され、更には斯界発展の一助と成りますことを切に願う次第であります。

令和三年八月十一日、当日は素晴らしい好天に恵まれました。早朝にも拘らず全員元氣ハツラツと集合し、二荒山神社中宮祠で開講式に臨みました。神社を代表し町井中宮祠部長、続いて上野会長から挨拶を戴き、登拝の安全を祈念して参拝、各自身支度を整えて午前七時半に出発しました。登る際のコツとして一合目から三合目までは、慌てずになるべく休まず、

三〜四十分を掛けて登ることです。ゆっくり体を慣らすことで思わぬ怪我を防ぎ、後半の体力温存に繋げることができます。四合目で少し長めの休憩を取り、水分補給と全員の体調確認を済ませ再び出発です。五合目からは各合目毎に各自の体調に合わせて短めの休憩を取りながら登りました。難所のガレ場が続く七合目、八合目まで来ると徐々に体力の差も現れましたが、遅れ気味の仲間の荷物を肩代わりする者や自分の持つてきた携行食を分け与える者、声を掛け合い疲れれた仲間を鼓舞する者など、あらためてむすび会精神の素晴らしさを拝見させて戴きました。九合目を過ぎ、森林限界域を抜けると一気に視界が開けて頂上が近づきます。するとそれまでの疲れも忘れ、皆われ先にと私を抜き去ってゆきました。この溢れる若さもまたむすび会の真骨頂です。目標通り午前十一時に無事に山頂へ到着し、神社職員奉仕により奥宮正式参拝を執行、続いて新型コロナウイルス感染症の早期鎮静を祈願して全員で大祓詞を上げました。限られた時間でしたが太郎山神社周辺や大剣、対面石など山頂一帯を見学することができました。久々に奥宮社務所を開け、男体山登拝祭の神事や職員の山頂勤務などの話しを興味津々に聞いてくれました。短めの昼食を摂り、休む間もなく正午過ぎに下山を開始しました。午後は天候が急変する場合があるので早めの下山が鉄則です。下りの行程には偶然居合わせた当社の崇敬者である鈴木栄次氏も同行し、七百回以上の男体山登拝の様々な知識や経験談をユーマを交えながら我々に語って下さいました。それぞれ多少膝の痛みはあったものの、午後二時半に中宮祠へ全員無事到着、閉講式を開き研修所から終了証も戴く事ができました。今回は宮司からの計らいで社務所内にある温泉浴場も開放されました。汗まみれ泥まみれの体をきれいに洗い流し、疲れを癒しながら一日をふり返り、参加した者同士には良い裸の付き合いになったことでしょ。

さて、研修の目的に『登拝を通して日光の山岳信仰を学び、神職たる見識を深める』とありました。不慣れた先導役で聞きづらいいところもあったと思いますので、復習を兼ねて男体山信仰について少し触れてみたいと思います。男体山はまたの名を二荒山（ふたらさん）、古くは黒髪山（くろかみやま）とも呼ばれ、標高は二、四八六メートル。本県を代表する高山であり、当社の御神体山として登拝講社をはじめ県内外から篤い信仰を集める霊山です。近年は所謂“登山ブーム”を受けて、開山期間中は約二万人が登山する中難易度の山としても良く知られております。しかし僅か百五十年前まで男体山には女人禁制などの厳格な戒律があり、それを重んじる修験者たちの霊場でした。御由緒によれば奈良時代の末に下野の高僧沙門勝道が弟子と共にこの地へ入山し、現在は御本社や神橋の架かる山内周辺に拠点を置いて未開の地を切り拓き、二度の登山失敗と十五有余年の歳月を費やし、天応二年（西暦七八二年）春三月、前人未到の霊峰男体山登頂を果たしました。そのとき山頂に小祠を建て、二荒山大神と総称する三柱の御祭神（大己貴命・田心姫命・味耜高彥根命）を奉ったのが当社の起源とされます。同時期には現在の輪王寺も創建され、日光の原型がかたちづくられました。その後、日光では男体山を中心とした山々で山岳信仰が独自の発達を遂げ、やがて日光修験を確立させます。明治の神仏判然令によって修験道が廃絶されるまで、神道と仏教と修験道が混然一体となつて信仰の聖地“日光”を形成したのです。また、男体山信仰の奥深さを今に伝えるものに男体山頂遺跡があります。明治十年に初めて確認されてから昭和五十年代まで数回の発掘調査が実施され、出土数は数万点に上ります。海洋古代祭祀遺跡で知られる福岡県宗像市沖ノ島が“海の上の正倉院”と称されるのに対し、男体山が“山の正倉院”と形容される理由も然りです。膨大な遺物の調査研究は現在も当社の宝物館職員によって続けられております。出土品の多くは頂上から伸びる西側火口壁の突端、太郎山神社付近の断崖にできた岩裂深部に集中しています。昭和三十五年の調査に同行し、発掘作業を経験したという吉田名誉宮司（当時出仕）によれば、「地下は永久凍土のため現場近くで湯を沸かし、凍った土を解かしながら手作業で掘り進んだ。大変難儀したが低温で安定した山頂の環境が遺物の長期保存には好条件だった。」らしく、やがて次々と見事な遺物の発見に至ったそうです。しかしその後の作業も困難を極め、危険性を伴うことから調査箇所が山頂の一部に限られ、遺跡の全体像は未だ計り知れないままなのです。

地下数メートルに及ぶ大量の土器磁器片類、高度な技術を以て造られた銅鏡や仏法具、剣や舶来品の数々、これこそ奈良時代から江戸時代まで一千年に亘って連綿と続いた山頂祭祀の一端です。なぜこれほど大規模な信仰形態が一千年間も続いたのでしょうか。先ず男体山の地質的特徴として、地下の活発な火山活動により約七千年前に現在の形が出来上がったと云われます。日光火山群（日光連山）の中では新しい山であり、円錐台で悠然とした山体は遙か遠くから目すぐに男体山とわかります。火山地帯ならではの温泉や鉱物など豊富な地下資源もあり、太古から狩猟採集中心の生活を営む先住民にとっても男体山は沢山の恵みをもたらしてくれる神聖な山だったに違いありません。やがて大陸文化を纏った人々が西日本から東日本へと徐々に勢力を拡大します。しかし奈良時代末の陸奥（東北地方）は未だ蝦夷が治める異国の地でした。坂上田村麻呂の蝦夷征討に代表されますように、朝廷の支配力は豊城入彦命を始祖とする豪族が統治した毛野国（上野・下野）が北限だったのです。当時の男体山は異文化の民族が隣り合う、まるで国境のような役目も担っていたと考えられます。朝廷や地方豪族から献じられ、祭祀後に山頂へ埋納されたと考えられる貴重な宝物類は、男体山が如何に重要な山として認識されていたかを示すものであり、また平野部を中心に既に稲作農耕が発展していた当時に於いて、関東一円を潤す豊かな水源の象徴としても民衆から崇拝されていたことは容易に想像できます。様々な情勢と時代の変遷の中で男体山は重要、且つ尊い山としての地位を確立していったと考えられるのです。しかし、明治時代の到来は日光に様々な変革をもたらしました。先に述べた通り、日光修験の廃絶は衝撃的な事だったと想像されます。女人禁制の掟も解かれ、限られた人々の閉ざされた男体山はお百姓や一般大衆へ開かれた山になりました。その大きな受け口となって神社を奉護したのが今も続く男体山登拝講社です。近年は価値観の多様化や後継者不足で減少傾向が続いていますが、最盛期の講員数は一万人近くを誇りました。登拝祭神事や講社組織を守っていくことは、日光の歴史を伝えていくことであり、我々の大切な使命と云えます。

最後になりますが、本研修会の企画にあたり、感染症対策との両立を見事に成功させた齊藤委員長、根本・篠崎両副委員長の努力と行動力に敬意を表しますと共に、今回の男体山登拝研修会で得た経験を糧とし、栃木県青年神職むすび会が益々活躍されますことを祈念申し上げます。





栃木の神社 御朱印巡り

日時 令和三年十月十三日～二十七日
場所 道の駅「ばとう」那珂川観光センター内



三月十八日、大前神社に於いて芳賀支部・むすび会合同祭式研修会が開催されました。講師には大前恵比寿神社宮司加藤直人先生をお迎えし、未だ新型コロナウイルスの感染拡大が収まらぬ中、感染予防対策を徹底し、芳賀支部七名、むすび会会員十名、合計十七名が参加致しました。

午前は、先ず基本作法の復習を行い、姿勢や筋法、起居進退や敬礼作法等を加藤先生の御指導の下、確認致しました。拝の角度の違いや、筋の位置のずれ等、普段自分では気付かない所を御指摘して頂きまして、自身の癖を認識しました。

午後は整列や舂の著き方、三方の執り方や持ち方の確認を行い、後半は皇學館大學監修の地鎮祭のビデオを鑑賞すると共に、日々の奉仕との違いを、加藤先生交えて会員皆々意見を出し合いました。

質疑応答では、献饌における水玉の蓋の置く位置や、自身の祭場における立ち位置等の質問に、丁寧で分かりやすくお答えして頂きまして、加藤先生の祭式に対する姿勢や知識の深さにとても感銘を受けました。会員同士が交流を深めながら切磋琢磨し、各々が自身の祭式を見直すとても意義のある研修会を行う事が出来ました。

むすび会の祭式研修会には初めて参加させて頂きましたが、今回の研修会を通して神職に於ける祭式がいかに大切であるかを学び、私自身も加藤先生に沢山の御指導を頂き、改めて自身の祭式の未熟さを痛感しました。御指導頂いた箇所を直していく事は元より、自身の祭式が今より崩れぬよう意識しながら、日々の神明奉仕に活かして参りたいと思います。

又、この度会場を提供して頂きました柳田耕太宮司様を始め、職員の皆様方には、心より厚く御礼申し上げます。

今宮神社 櫻木悠人

祭式研修会

令和三年度 むすび会事業報告

(令和三年)

四月 五日	第一回一都七県協議会定例会議	ハイブリッド会議	十月二十七日	第三回一都七県協議会定例会議	WEB会議
四月 六日	会計監査会	栃木県神社庁	十一月 九日	神青協ウェブ研修会研修二(第二講)	WEB開催
四月 十三日	第一回役員・委員長会議	栃木県神社庁	十一月十一日	神青協ウェブ研修会研修二(第二講)	WEB開催
四月二十三日	神青協第七十二回定例総会	ハイブリット開催	十二月 二日	第五回役員・周年実行委員会会議	栃木県神社庁
五月 十七日	令和三年度定例総会	栃木県神社庁	十二月 七日	第四回一都七県協議会定例会議	靖国神社
五月二十一日	とちのみ学園神棚祭(慰問品のみ奉納)	佐野市	(令和四年)		
六月 三日	那須御用邸清掃奉仕活動	那須御用邸	一月二十七日	第六回役員・周年実行委員会会議	栃木県神社庁
六月 十七日	第二十七回神青協一都七県定例総会	WEB開催	二月 十一日	建国記念日奉祝式典・講演	護国神社会館
六月二十九日	リモート親睦意見交換会	WEB開催	二月 十四日	第五回一都七県協議会定例会議	WEB開催
七月 十六日	第二回役員・委員長会議	WEB会議	三月 九日	神青協中央研修会	ハイブリット開催
八月 六日	第三回役員・周年実行委員会会議	栃木県神社庁	〓十日		
八月 十一日	男体山登拝研修会	男体山	三月 十七日	第七回役員・周年実行委員会会議	栃木県神社庁
八月 十三日	第二回一都七県協議会定例会議	WEB会議	三月 十八日	芳賀支部合同祭式研修会	大前神社
八月二十七日	神青協夏期セミナー	WEB会議	※その他 役職員会・委員会等を必要に応じて開催		
十月 二日	神青協ウェブ研修会研修一(第一講)	WEB開催			
十月 四日	神青協ウェブ研修会研修一(第二講)	WEB開催			
十月 六日	第四回役員・周年実行委員会会議	栃木県神社庁			
十月 十三日	南那須支部合同御朱印展	道の駅「ばとう」			
〓二十七日		那珂川観光センター			

令和四年度むすび会役員・幹事氏名

【役員】

会 長	上野 敬則	白鷺神社	禰 宜
副 会 長	越口 政典	天満宮	禰 宜
副 会 長	和田 晋典	瀧尾神社	宮 司
事務局 長	小林 誉史	星宮神社	禰 宜
会 計 長	岡村 洋佑	乃木神社	権禰宜
庶 務 長	井上 潤一	大前神社	権禰宜
渉 外 長	小林 迪寛	宇都宮二荒山神社	権禰宜
監 事 長	津田 宏	乃木神社	権禰宜
監 事 長	田邊 雅祥	岩崎神社	禰 宜
監 事 長	寺内 誉迪	村檜神社	宮 司
議 長	武内 聡史	報徳二宮神社	禰 宜

【地区代表幹事】

中央地区代表 (宇河支部・宇都宮二荒山神社)	矢 部 貴 也	宇都宮二荒山神社	権禰宜
北東部地区代表 (芳賀支部・大前神社・塩谷支部・南北那須支部)	小 幡 仁	鹿島神社	禰 宜
西部地区代表 (上都賀支部・古峯神社・日光二荒山神社)	須 藤 茂 成	日光二荒山神社	権禰宜
南部地区代表 (下都賀支部・唐澤山神社・安佐支部・足利支部)	小 堀 巧 人	島田八坂神社	宮 司

各種委員会

正副委員長

【研修・広報委員会】

委 員 長 齊藤 隆倫 大前神社 権禰宜

副 委 員 長 根本 直樹 大前神社 権禰宜

副 委 員 長 篠崎 博哉 宇都宮二荒山神社 権禰宜

【事業・親睦委員会】

委 員 長 黒本 裕子 大宮神社 宮 司

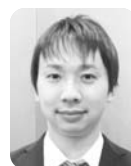
副 委 員 長 山本 明翔 日光二荒山神社 権禰宜

副 委 員 長 小堀 巧人 島田八坂神社 宮 司

一都七県・神青協関係

一都七県理事・神青協代議員	上野 敬則	白鷺神社	禰 宜
一都七県地区理事	上野 敬則	白鷺神社	禰 宜
神青協代議員	和田 晋典	瀧尾神社	宮 司
神青協時局問題調査員	井上 潤一	大前神社	権禰宜
一都七県事務局員	小林 誉史	星宮神社	禰 宜

新入会員紹介



石田 達也

奉職先 今泉八坂神社
役職 権禰宜

自分を一言で表現して下さい 気分屋
これからの抱負をお願いします
誠心誠意、神明奉仕に努めて参りますので、
よろしくお願いします。



菱沼 拓己

奉職先 鷺宮神社
役職 禰宜

自分を一言で表現して下さい 話好き
これからの抱負をお願いします
地元から信頼される神主になりたいです。



渡 伊吹

奉職先 乃木神社
役職 権禰宜

自分を一言で表現して下さい おとなしい
これからの抱負をお願いします
未熟者ですが、精一杯がんばります。

祝 御結婚

三田 真隆

奉職先 日光二荒山神社
入籍日 令和三年九月十日

新婦氏名 杏実

新郎のつばき 明るく元気な家庭を築いていきます。

祝 御誕生

林 靖大

名前 是那(せな)君(第三子)

誕生日 令和四年二月十三日

子供への一言 初めての男の子。

のびのびと健やかに育ちますように。

小林 迪寛

名前 華乃香(かのか)さん(第二子)

誕生日 令和四年四月十四日

子供への一言 父さんは元気にやっています。

総合印刷

(株)井上総合印刷

代表取締役会長 井上 光夫

代表取締役社長 井上加容子

本社 宇都宮市岩曽1355

TEL (028) 661-4723

FAX (028) 662-7607

宮内庁 神社本庁・栃木県神社庁・各県神社庁
全国神社・小笠原流弓馬術礼法教場
御用達

株式会社 大槻装束店

代表取締役 大槻 奈津子

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-13-2

<http://www.ootsuki-shozokuten.com>
E-mail: info@ootsuki-shozokuten.com

千代田線・湯島駅徒歩4分 / 銀座線・東広町駅徒歩6分

電話 : 03-3835-3201 FAX : 03-3835-0617

神祭具 授与品 記念品 奉製



株式会社 神路社

本社

〒516-8611 三重県伊勢市岩渕2丁目5番29号(私書箱第26号)

電話番号 0596-24-5858 / FAX 0596-24-5110

E-mail info@kamijisya.co.jp

神苑(東日本営業所)

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1丁目26番14号 ACTビル4階

電話番号 03-3280-6720 / FAX 03-3280-6721

E-mail shinen@kamijisya.co.jp<http://www.kamijisya.co.jp>

新製品

神棚セット
いろは

民俗工芸総合カタログ



株式会社

民芸工芸

〒857-1162 長崎県佐世保市御本町18-1

TEL 0956-34-5500 / FAX 0956-34-5511

E-mail info@minzoku.co.jp

全国各神社御用達

神符・守札・木札・錦守・御守矢・交通安全守
集印帳・御守り袋・絵馬その他各種御札・御守
奉書紙・書道半紙・耐水奉書・他各種和紙謹製

創業江戸時代後期 真心で奉仕する

今村紙業株式会社

代表取締役 今村 和弘

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門6237-11

電話 055 (272) 0514

FAX 055 (272) 8818

祈る心によりそう御守づくり
京の伝統に真心を込めて

京都奉製株式会社

☎ 0120-164124 (イロヨイニシキ)

<https://www.omamori.co.jp/>

御社頭授与品奉製

※御希望通りの御調製申し上げます。
御一報次第参上致します。

新日本工芸株式会社

〒311-4153

茨城県水戸市河和田町3891

電話 (029) 251-0997(代)

FAX (029) 252-8287



創業百年信頼ブランド

麻・鈴緒・鰐口紐・化繊注連縄製造

有限会社 モミヂヤ

〒328-0042 栃木市沼和田町12-14

フリーダイヤル 0120-22-1312

FAX 0282-22-1387

<https://momidiya.com/>

神棚に御礼をおまつりし
家内の安全をお祈りいたしましょう

 **神宮会館**
伊勢神宮振興協会



板葺神棚(中)
外寸: 幅46×高44×奥20cm
内寸: 幅12.5×高32×奥8cm
101000円 (税込) 税744



洋風神棚
外寸: 幅20.6×高30.6×奥6.2cm
おまつりできる部材(最大) 高さ
25000円 (税込) 税1868



茅葺神棚(中)
外寸: 幅7.5×高51.5×奥37.5cm
内寸: 幅21.5×高32×奥8cm
501000円 (税込) 税748

※茅葺神棚・板葺神棚の大きさは各(大)(中)(小)がございます。他に壁掛け用神棚もございます。
種類・寸法などは神宮会館公式通販 (<http://jingukaikan.shop/>) をご覧ください。

TEL **0596-22-0001** FAX **0596-22-1517**
公式通販 <http://jingukaikan.shop/> E-mail tsuhan@jingukaikan.jp

各授与品、記念品奉製

金襴綿守、合成樹脂製守、紙札守
木札、金属製守、反射ステッカー

●その他各種授与品御希望に奉製致します。

株式会社 三愛工芸

〒311-4143 水戸市大塚町字谷津1761-16
TEL 水戸 (029)251-2051(代)
FAX 水戸 (029)253-5844

社寺建築請負い

株式会社 石川工務店

代表取締役 石川 明

〒321-1406 栃木県日光市松原町1233番地
TEL **0288-53-0408**

御装束・御社殿装飾調度・祭器具
家庭用御宮各種・授与品・記念品

(株)高善装束店

代表取締役 桑 茂雄

〒113-0021 東京都文京区本駒込3-2-9
TEL 03(5815)8771
FAX 03(5815)8772

松岡計量器



〒503-0888 岐阜県大垣市丸の内1丁目64番地 電話 0584-78-2364

営業品目

縁起物入おみくじ・金属製守・木札守・紙札守
金襴綿守・各種熊手・守護矢・朱印帳

おまわりの奉製

株式会社 阿部

本社・工場 〒323-1104 栃木県栃木市藤岡町藤岡213-7
TEL (0282) 62-1010 (代表)
FAX (0282) 62-2061

 **総合広告代理業 Advertising Agency.**
株式会社 下野広告社

代表取締役 山本 守

〒320-0033 宇都宮市本町9-17
☎ **028-666-8123 / Tel (代表)**

誠実と真気で奉仕する

御守・授与品・参拝記念品奉製

天然石厄除開運腕輪守・天然石みくじ

御一報次第カタログ御送り致します。

グリーン産商株式会社

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL (06) 6702-6009 (代表) FAX 0120-34-2996

県内各神社様、工事拝命先(順不同)

日光東照宮
日光二荒山神社
宇都宮二荒山神社
真岡大前神社
大田原那須神社
西那須野乃木神社
氏家今宮神社
足利星宮神社

矢板木幡神社
小川温泉神社
利権崎八幡宮
佐野人丸神社
下母井八幡宮
足利八雲神社
一瓶塚稲荷神社



株式会社 小西美術工芸社

〒321-1421 栃木県日光市所野2829-1
〒108-0014 東京都港区芝4-4-5 三田KMビル3階
TEL 日光(0288)54-1198(代) TEL 東京(03)5765-1481(代)



〈営業品目〉

- 交通安全御守護
- 開運招福鈴
- 文鎮 金盃
- 各種記念品類
- 胸像・レリーフ・铸造類

鈴木徽章工芸株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL 03-3814-1811 FAX 03-3818-8332
E-mail: info@suzuki-kisho.co.jp
http://www.suzuki-kisho.co.jp



授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所

代表取締役 長谷川義貴

HASEGAWA

creation with warmth



〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町 466-1
TEL: 048-921-1221/ FAX: 048-921-1515

〈全国撮影認可済〉ドローン空撮承ります

空撮した画像は印刷物への利用も可能ですので
トータルでお任せください!

—文化を表現する会社—

株式会社 益子印刷

栃木県芳賀郡益子町益子1709-6
TEL.0285-72-3131 FAX.0285-72-6868

創業 明治以前



各種御神符・守札 その他授与品全般
湊御神符奉製所

株式会社 湊

伊勢市神宮会館前 (〒516-0025)
TEL(0596)22-2442 (代表) FAX(0596)28-8445
info@ise-minato.co.jp



あなたと一緒に
アイデアをカタチに
する会社です!!

株式会社 協栄社

あなたとアイデアをカタチに
KYOEISHA

真岡市荒町5133番地1
TEL.0285-82-9000

www.kyoeisha-printing.co.jp



編集後記

この度も無事に「会報むすび」を発刊できましたのは、会員をはじめ、諸先輩方、御協賛頂きました方々のお陰で御座います。先ず以て、心より厚く御礼申し上げます。また、日光二荒山神社様には登拝研修にご協力を頂きましたこと、この場を借りて重ねて御礼申し上げます。

さて、令和三年度は当会が神青協一都七県協議会定例総会の主管を勤めさせていただきました。残念ながらWebでの開催となってしまったものの、会員一丸となり計画を進め、無事に役目を勤め上げられたことに大変安堵しております。しかしながら、まだまだ全国を始め、栃木県においても新型コロナウイルスの脅威は治まることを知らず、今後も多くの行事が縮小や中止等を余儀なくされるかと思えます。そうした中で当会は創立六十周年を迎えることとなりました。これまでのコロナ禍で実施してきた事業の経験を活かし、しっかりと感染対策をした上で、様々な記念事業を実施していきたいと考えております。

諸先輩方の築き上げてきた物をしっかりと引継ながらも、新しいことにチャレンジして参りますので、今後とも変わらぬ御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に、一日も早い新型コロナウイルスの終息、そして皆様のご健勝と弥栄をお祈り申し上げます。

令和三年度
研修・広報委員会名簿

委員長	齊藤 隆倫
副委員長	根本 直樹
副委員長	篠崎 博哉
委員	林 靖大
	高橋林之介
	大塚 聡
	増渕 直紀
	須藤 茂成
	古川 導正
	田名網健太
	太岐口建彦
	篠田 元暉
	手塚 健太
	小幡 仁
	櫻木 悠人
	星野 宇洲

栃木県青年神職むすび会 頒布品



着帯のお祝い(安産祈願)

腹 帯

〈岩田帯〉

頒布価格(1箱) **1,000円** (送料別)

くじら尺を用いて、縁起の良い7尺5寸3分(約3m)に裁断し、高級感ある桐箱に納めました。

中の帯は、縦に二つ折にし、巻き納めてあります。(解説書在中)

注文からお届けまで、お時間をいただく場合があります。

納期に余裕をもって、ご注文ください。

ご注文
問い合わせ

〒321-1431 日光市山内2307(日光二荒山神社内)

栃木県青年神職むすび会

事業・親睦委員会 副委員長 山本明翔 宛

【ご注文はTEL・FAXにて受付致します】

FAX.0285-54-0537 TEL.0288-54-0535

